

R4年度 土砂災害防止功労者表彰者 一覧

【個人】

推薦団体	氏名	表彰基準	功績概要
長野県	恩澤 龍雄	(2)二次災害防止に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年7月豪雨の際に発生した天龍村足瀬地区の土砂災害において、自宅から離れた対岸斜面の崩落に気づき、すぐに村役場へ斜面崩落について情報提供を行った。 ●また、被災により通行に支障が生じた地域の状況について情報収集するとともに、村役場との間の連絡体制の整えるなど、村役場の災害対応に貢献した。 ●こうした行動は、村役場をはじめ、県、国の迅速な対応につながり、二次災害の防止に大きく貢献した。
静岡県	土屋 智 (静岡大学名誉教授)	(4)土砂災害防止対策事業の推進 (10年以上)	<ul style="list-style-type: none"> ●静岡県における警戒避難体制の整備、火山砂防計画の策定など、土砂災害に関する各種委員会で委員長等を歴任し、県のホームドクターとして、卓越した技術力と経験に基づき、委員会運営等を通して、県の砂防行政において、多大な功績をあげてきた。 ●特に、急峻な地すべり斜面直下に東海道本線や東名高速道路など重要な交通網がひしめく由比地すべりは、対策の緊急性が高い一方、地形や地質が複雑で高度な技術を要することから学識者の意見を聴取するため委員会が設置され、平成16年度以降、委員会を通して数々の助言を行い、それらは現在の対策の礎となっている。 ●また、静岡県に限らず、砂防学会及び地すべり学会において要職を歴任されており、特に地すべり学会では平成26年、27年度に会長に就任され、学会の発展と科学技術の振興及び安全な地域社会の実現に向け尽力されるなど、広く砂防・地すべり分野において多大な功績をあげてきた。
奈良県	更谷 慈禧 (前十津川村長)	(4)土砂災害防止対策事業の推進 (10年以上)	<ul style="list-style-type: none"> ●平成23年9月の紀伊半島大水害時、奈良県吉野郡十津川村では、累積1,358mmの記録的な雨量を観測し、深層崩壊や河道閉塞の形成等、甚大な土砂災害が発生した。 ●村長として昼夜を問わず災害対策の指揮をとり続けた他、避難が長期化する中、居住性に優れた木造の仮設住宅の設置を関係機関に掛け合って実現するなど、常に住民に寄り添う姿勢で災害対応に当たった。 ●災害発生後の復旧・復興を進めるにあたり、全国的に中山間地域で課題となっている少子高齢・過疎、地域防災力の低下を克服するため、村内で安全・安心な場所を探し、最期まで住み続けられる集落の仕組みづくり「高森のいえ構想」を提唱・推進し、土砂災害が発生しても人的災害に繋がらないような安全・安心集落づくりと福祉の両立を他に先駆けて精力的に進めてきた。 ●さらに山を守ることが土砂災害を減らす事に繋がると「林業の6次産業化」にも取り組み、安全で効率的な林業や生産から販売までの一貫した体制を推進することにより地域の産業を活性化するほか、森林整備が図られることにより土砂災害の減少にも繋がるのが期待される。 ●令和3年4月の村長退任後は、「紀伊半島大水害10年シンポジウム」において基調講演を行うなど、啓発活動を実施し、大規模な災害に見舞われながらも、住民本位で、常に復旧や復興の先頭に立って対応に当たっている。
大分県	平野 一義 (日田市天瀬町赤岩自治会自治会長兼杉河内班長)	(1)地域住民の生命又は身体の保護	<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年7月6日から8日にかけて梅雨前線が九州付近に停滞したため、大分県日田市では、河川被害、土砂被害(土石流、がけ崩れ)が発生し、全壊53戸、半壊88戸、一部損壊68戸の被害が発生した。 ●日田市天瀬町の杉河内班(28世帯74人)の市指定避難所は集落から約6km離れており、地域住民の迅速且つ安全な避難のため、令和2年6月26日から地区に近い隣町の玖珠町杉河内小学校(休校中)を自主避難所として開設することを玖珠町から理解と協力を得ていた。 ●令和2年7月7日の豪雨の際には、同校への迅速な避難誘導により、地区住民が一斉に避難を行い、また、天ヶ瀬温泉街入口付近で河川氾濫が発生し、近隣の地区住民が指定避難所に移動する事が困難となったため、速やかに同校への避難誘導を行った。 ●「大丈夫」と自宅にとどまろうとした住民を避難させた10分後に土砂崩れが発生し、その住民の自宅にも土砂が押し寄せ、崩れたがけは高さ48m、幅25mにわたっていたが、人的被害を未然に防いだ。
大分県	小野松 晋一 (社会福祉法人日田市社会福祉協議会会長)	(4)警戒避難体制の整備 (10年以上)	<ul style="list-style-type: none"> ●「日田市中津江高齢者生活福祉センター(安寿苑)」の指定管理者である日田市社会福祉協議会の会長として、8年前の平成24年7月九州北部豪雨災害の経験を基に避難計画を策定し、「警戒レベル3」で避難することを習慣化していた。 ●災害発生前日の令和2年7月6日、70代から90代の男女3名が入所、20名程度がデイサービスを利用していたが、大雨警報に伴い、「警戒レベル3＝避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたため、いち早くデイサービスを休止し、入所者3名と職員2名で日田市中津江振興局に避難した。 ●翌日の令和2年7月7日朝に施設の裏山が高さ45m、幅35mにわたって崩れ、施設3棟が全壊・床上浸水、介護用車両も7台埋没する被害が発生したが、早期避難の習慣化の取り組みにより人的被害を未然に防いだ。

推薦団体	氏名	表彰基準	功績概要
九州地方整備局	北園 芳人 (熊本大学名誉教授)	(4)土砂災害防止対策事業の推進(10年以上)	<ul style="list-style-type: none"> ●日頃より、九州管内における砂防事業や土砂災害対策について助言を行い、大規模な土砂災害に対する危機管理の体制強化に尽力しているほか、平成5年以降、20年以上にわたり数々の土砂災害関係の委員会に参画している。 ●特に、平成28年4月熊本地震で発生した阿蘇大橋地区の大規模斜面崩壊対策においては、復旧技術検討会の委員長として、急峻で不安定な大規模崩壊斜面の対策という困難な事業に対して、専門的で卓越した技術指導を行い、国道並びにJR豊肥線の早期復旧に貢献した。 ●さらに、令和元年7月豪雨で被災した熊本県人吉市城本町の斜面変状箇所に対するTEC-DOCTORとして要請を受け、迅速に被災箇所の診断や対応策について、助言を行っている。

【団体】

推薦団体	団体名	表彰基準	功績概要
新潟県	来海沢区	(1)地域住民の生命又は身体の保護 (2)被災地域の情報提供、社会秩序の保全及び被災者支援	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年3月3日夜遅く、新潟県糸魚川市大字来海沢地内において、融雪を主因とする地すべりが発生し、地すべりにより流出した土砂は、翌日4日朝には約1km下流まで到達し、来海沢集落の家屋6棟が全半壊するなど未曾有の大被害を受けた。 ●当該地区の区長及び役員9名は、4日未明、市から地すべり発生の電話連絡により参集し、午前3時に西側地区の避難勧告発令を受け、地すべりに伴う地区全域停電による暗闇の中、寝静まっている地区住民を戸別に回って、避難を呼びかけると共に、高齢者を自家用車で地区内の一次避難先へ避難誘導した。明け方には土砂が人家に到達したが、この行動により、土砂到達直前までに全員の避難が完了した。 ●当該地区は過去の地すべり災害等の経験から毎年、市の防災訓練に合わせて、「声を掛け合って避難する訓練」を実施しており、どの役員が誰を自家用車で迎えに行くかを予め決めていたため、よりスムーズな避難に繋がった。 ●このほか、一部住民の避難生活が続く中、「来海沢区かわら版」(地すべりの調査、応急対策工事の進捗状況などの情報)を毎月2回発行し、避難者や地区内で耕作している人などの関係者へ、手渡しや郵送配布を行っている。 ●また、地区内集会所には地区内居住者及び耕作者の入出表を掲示し、避難勧告が発令された場合の、逃げ遅れがないかを一目で把握できるように備え、これにより3月の発災以来、10月末までに計10回の避難(避難勧告発令及び自主避難等)があったが、一人の逃げ遅れも無く、確実に避難が行われている。 ●これらの訓練などの取り組みが今回の地区住民全体の迅速な避難行動に繋がったことが評価された。